

ハンセン病やエイズのような感染症や難病などの患者は、病気への理解や知識不足から、感染者やその家族が偏見や差別を受けるケースが後を絶ちません。また知識がある程度普及した現在においても、感染者に対する差別や偏見がなくなっていないのが現状です。

病気の様々な状態にある人々が自分らしく生きる社会こそ、みんなが共生できる自由な社会です。患者や元患者、その家族に対する差別や偏見をなくし、理解を広めるため、正しい知識の普及・啓発に取り組みます。

●正しい知識の普及・啓発及び相談・支援体制の充実 ●人権に配慮した保健医療の推進 など

ハンセン病とは

- ・遺伝病ではありません。・感染力の極めて低い細菌による病気です。
- ・優れた治療薬で治ります。・早期に治療すれば、体に障がいが残ることはありません。
- ・わが国には感染源になるものはほとんどありません。
- ・ハンセン病は、治療中でも治療終了後も社会で共に学び・働き・一緒に過ごすことができる普通の病気です。

エイズ(後天性免疫不全症候群)とは

○HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染しておこる病気です。

ここ数年、日本では新たなHIV感染者及びAIDS患者が確認されており、累計では3万人を超えています。

○HIVに感染すると、だんだん体の中の抵抗力が弱り最後にエイズという病気になります。

- 感染経路は3つ
- ①性行為による感染
 - ②血液を介しての感染
 - ③母から赤ちゃんへの母子感染

HIV感染症を調べる血液検査

大分県北部保健所では、無料かつ匿名で検査を受けられます。即日(迅速)検査を実施しており、検査の所要時間は1時間です。(検査は事前の予約が必要)

エイズ検査に関するお問い合わせ先 大分県北部保健所(中津)
☎0979-22-2210(平日8:30~17:15)

この場合は伝染(感染)しません



(厚生労働省ホームページより)

医療の進歩における患者の権利

医療は日々進歩しており、様々な領域で新たな発見があり、新たな治療法や医薬品が開発されています。そこで、知識の乏しい患者や家族がいろいろな情報を集め、医師から病名や症状などについて十分な説明や意見を聞き、選択肢やリスクを理解した上で納得して治療法を決定するのは当然の権利です。

ここでは「インフォームド・コンセント」と「セカンド・オピニオン」について簡単に説明します。

【インフォームド・コンセント】

インフォームド・コンセントとは「十分な説明と同意」と訳されます。これは医師と患者との関係を規定した概念で、医療現場において医師が患者に病名、病状などを正しく伝え、治療法などについて患者の同意を得ることをいいます。

【セカンド・オピニオン】

主治医から十分な説明を受けたとしても、患者やその家族は「本当にそうなのか」「他にもっとよい治療法があるのではないか」といった疑問をもつのは当然のことです。

その際に主治医以外の医師の意見を聞くのがセカンド・オピニオンで、日本語に直訳すれば「第二の意見」です。

人権について困ったことがあれば、ひとりで悩まずご相談ください。

感染症に関連した偏見や差別をなくしましょう

(法務省ホームページより)

https://www.moj.go.jp/JINKEN/stop_coronasabetsu.html



人権相談窓口

◆みんなの人権110番(平日8:30~17:15) ナビダイヤル



0570-003-110